

第75回

『ネリカンブルース』と『夢は夜ひらく』の人間関係

『ネリカンブルース』という歌があります。ネリカンとは「練馬少年鑑別所」を略した通称で、メロディー自体は戦前の兵隊ソング『可愛いスーちゃん』（作者不詳）を流用、ワルツ調の3拍子曲で大陸的なのかな旋律です。

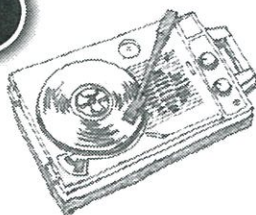
『可愛い』では、故郷にいる恋人への慕情と厳しい軍隊生活が読み取らずで歌われていますが、『ネリカン』では、入鑑少年たちの懺悔と愚痴が延々と続きます。退廃的・虚無的という理由で放送禁止（実際は放送自粛）になったため、広く伝播することはありませんでしたが、昭和48年に藤圭子がアルバムに収録し、少しく知られるようになりました。

昭和40年頃、この『ネリカン』をソノシートで発売した歌手がいましました。昭和14年生まれの関西出身の元ロカビリー歌手であり、バンドつながりや同学年でもあったことから、佐川ミツオや先頃亡くなった内田裕也と親交のあった美川鯛二です。

ソノシート盤以前の昭和37年、美川は東芝レコードから『野良犬のブルース』でデビューし4枚ほどリリース

名曲カルテ

昭和歌謡と  
いままで



堀井六郎 浦松本 絵

ースしますが、鳴かず飛ばずで、その後、関西中心にジャズ喫茶などで糊口をしのいでいました。

昭和41年、ロカビリー人気の上降とともに表舞台から消えた佐川ミツオに、美川は作者不明の曲に自作詞を乗せた歌を提供しますが、レコード会社を説得できず、話は雲散霧消。実はその曲こそ、園まりの『夢は夜ひらく』の原型となったものでした。

作曲家・曾根幸明の著書によると、『夢は』は18歳のとき窃盗の罪で練馬鑑別所に収監されていたときにギターで創作したそうですが、当時の園まり盤には美川鯛二改め「中村泰士」の名前が補曲（採譜）者として明記されているので、おそらく美川中村が『夢は』を初めて耳に

したとき、読み人知らずの俗曲と捉えていたのかもしれない。

鑑別所の歌を持ち歌にしていた美川に『夢は』の情報が届いたとしても不思議ではなく、自作の詞（替え歌）がアレンジされて園まりの歌になったのでしょう。中村泰士は昭和を代表する作曲家の一人ですが、ヒット曲に初めて名が記されたのは『夢は』の共作詞者としてでした。

GSブームが続いていた昭和43年秋、エレキの奏でる歌とは対照的な静かな歌が関西を中心に浸透していききました。佐川ミツオ改め、佐川満男の『今は幸せかい』です。中村が実体験をもとに作詞作曲して佐川に提供した渾身の作品でした。「川に鯛はいない」と言われた芸名を捨て、本名で本格的に作曲家人生をスタートさせる引き金となりました。

昭和45年、『夢は夜ひらく』は『圭子の夢は夜ひらく』として再生、藤圭子と同曲は昭和歌謡を象徴する存在となりますが、作詞した石坂まさをは藤と出逢う以前、東芝レコードの作詞家として沢ノ井千江児の名で美川鯛二にデビュー曲を提供した人物でもありました。

